ごみ回収でコミュニティ貢献

会議所青年部でも地域盛り上げ

㈲ミドリ回収サービス
代表取締役
東 正充さん
（相模原商工会議所青年部会長）

ミドリ回収サービス（南区麻溝台）の東正充社長は、父親がトラック1台で始めた古紙回収業を23歳で引き継ぎ、42歳の今、20台以上の車両を保有する廃棄物・一般ごみ回収の会社にまで成長させました。リサイクルによる環境保全に加え、団地や学校での集団資源回収を通じ地域コミュニティの形成にも貢献しています。この4月からは相模原商工会議所青年部の会長に就任。地域の活性化に思いを巡らせる東社長に話を聞きました。

―ずいぶん若くして社長になりましたね。

「専門学校で音響技術を勉強して20歳からコンサート会場の音響設備を操作していたのですが、昼も夜もないし地方ツアーで1週間家に帰れないし、それに先輩がすごかったんです。楽器をチューニングする音を聞いて、周波数が440ヘルツなのか442ヘルツなのか分かってしまうほど。私にはとてもできません。それで家に帰ったら、いきなり社長になってました（笑）」

―廃棄物や一般ごみの回収は行政からの委託事業ですから安定しているのでしょうか。

「いえ。競争入札で業者を決めますので、常に仕事を失うリスクがあります。実際に仕事を失って、社員の生活のために必死で別の案件を受注したことがあります。交通の便が悪いエリアではコストばかりかさみ、何のためにやっているのか分かりませんでした。でも、業者が仕事を放棄したら町中がごみだらけになってしまいます。きちんと利益を確保できる仕事をしようと思いました」

―業務効率化のためデジタル技術の活用に積極的とか。

「相模原市環境事業協同組合の理事長会社である清和サービスさんと2社で、回収ルートをタブレットで管理する実験を始めました。曜日ごとにごみの種類が変わる収集ポイントを、どんなルートで回れば早いのか、実は現場の作業員しか知らなかったりします。収集ポイントだけ入力したタブレットを渡すと、GPSでベテランの回収ルートが自動的に記録されます。新人でも先輩のルートを見て回れるし、取り残しがあれば隣のルートのチームがフォローできる。プライベートを大事にする社員にいつでも有給休暇を取ってもらうには、こういったシステムが必要です」

―商工会議所青年部に入ったきっかけは。

「8年ほど前、同業社の青年部役員に日時と場所を指定して呼び出され、行ってみたら青年部の集まりでした。議論が紛糾してすごい雰囲気だったのですが、終わって飲みに行くとみんな仲良しで私をかまってくれました。会社経営に煮詰まっている頃だったのですが、みなさん同じ道を通っていて、経験を惜しみなく教えてくれました。それも『こうしろ！』ではなく、いくつかのパターンを示して本人に選択させるんです。とても勉強になりました」

―4月から、その青年部の会長です。

「青年部は45歳以下の経営者または社員約90人で、広報拡大委員会、地域経済活性化委員会など5つの委員会が活動します。相模原市はロボットやリニア中央新幹線などで相模原駅北口の補給廠跡地をどう使うかとか、面白いテーマがいろいろあります。若く自由な発想で地域を盛り上げたいですね。先日の市民桜まつりでは、懐かしのテレビ番組で使われた『電撃イライラ棒』を作ったメンバーがいて、子どもたちに大受けでした。子どもに経済を学んでもらう事業があってもいいかもしれません。みんなの意見を聞き、昨年に続いてまちづくりに関する提言書をまとめていきたいと考えています」